



尾形喜代治

尾形 喜代治（おがた きよじ）

河北町名誉町民 平成 12 年 6 月 20 日顕彰

大正 3 年（1914）、谷地町横町（現河北町谷地）に生まれました。谷地小学校高等科を卒業し、兄の大工業を手伝っていましたが、少年時代から細工を好み、木彫りも試みしました。昭和 10 年（1935）、県内有数の展覧会に木彫「角兵エ獅子」を出品し、みごと知事賞を得て、彫刻家として身を立てようと志し、翌 11 年 23 歳で上京しました。

彫刻家内藤伸、澤田政廣に師事して腕を磨き、昭和 16 年（1941）新文展出品の木彫「撃」が初入選、同 21 年、日展出品の「みのり」、「拓く男」が連続入選。生来の天分と研鑽が開花し、次々と秀作を発表します。日展では昭和 22 年出品の「砂丘」、翌 23 年出品の「肩車」が連続して特選、同 34 年出品の「若き日」と計 3 回特選の栄誉に輝きました。日展審査員や同評議員も数回務め、わが国彫刻美術界に不動の地位を確立しました。

一方、昭和 26 年（1951）には、当時の在京県出身美術家たち 6 人による同樹会の結成に参加し、東京と山形で数年にわたり同人会展を開催し、郷土美術の啓発に貢献しました。

また、氏の作品は、東京都内始め全国各地に、平和記念像やその地の偉人の肖像彫刻が銅像として存在し、堅実で格調高い作品が高く評価されています。郷里の河北町にも、氏の寄贈など多くの作品があり、公共施設や街頭に展示されて町民に親しまれています。